

1. 下級生のレポートやプレゼンテーション発表を見ていると、日本語力の著しい低下を感じる。冗談でも言葉の綾でもなく、彼らは日本語を書いていないし、しゃべってもいない。論理も通っていないし、何が言いたいのかわからないレベルなのである。あまりにもひどいので、なぜこんなことになっているのか、まじめに考えてみることにしよう。

2. 研究のプレゼンテーションが上手にできない、レポートを簡潔にうまく書けない—— 学生ならポピュラーな悩みである。わたしが見ている限り、そういう学生のほとんどは、**向こう側に人がいる**ということ意識していない人ばかりだ。向こう側に人がいるということ。これを理解できずして人に何かを伝えるなんてできっこないし、ひいては人生の豊かさに関わってくる。

たとえば、あなたのパソコンやケータイのモニタに広がるSNSの世界。これは「向こう側には人がいる」典型例である。そこに書き込まれたコメントは人間によって書かれたものであり、ふだん意識しづらいリアルな人間の影がそこにある。コメントの類は勝手にわいてくるのではない。確かに人間が書いているのだ。

発表の場に限らず、何かそこに物事があれば、向こう側には人がいる。あなたが使っているコンピュータだって、シャーペンだって、マグカップだって、モノの向こう側には作った人がいる。

3. いま、この向こう側に人がいる感覚が危うい。「なんだこのソフト使いにくいなあ、クソだな」などと感情的に不平を平気で言ってしまう。もしそのソフトの作者があなたの友達だったらなら、面と向かってそんなことを言えるだろうか。これが「向こう側には人がいる感覚の欠如」だ。電車が遅れると怒鳴り散らす人がいるが、